

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
臨床看護総論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	金塚 孝司 (臨床経験 34 年) 関 あゆみ (臨床経験 9 年)	2 年後期

【学習目標】

診療・検査を受ける対象のニーズを理解し、診療・検査・治療に関わる援助技術の知識が理解できる

【授業の進め方】

講義、演習、個人ワーク、グループワーク

【授業スケジュール】

- 1 講義オリエンテーション I. 診療・検査時の看護
- 2 II. 創処置を必要とする患者の看護 包帯法 (演習)
- 3 III. 薬物療法に伴う看護 1. 与薬の基礎知識
- 4 2. 与薬法 (経口・外用・注射) と看護
- 5 3. 直腸内与薬 (演習)
- 6 4. 輸液療法と看護
- 7 IV. 安静療法を必要とする患者の看護 (輸血管理)
- 8 VI. 注射法ー演習に向けて
- 9 演習 「注射による与薬方法」 ①皮下注射 ②筋肉内注射
- 10 演習 //
- 11 VII. 検査に伴う看護 1. 採血の基礎知識
- 12 2. 採血の技術 (グループ学習)
- 13 演習 「採血」
- 14 //
- 15 試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社
 基礎・臨床 看護技術

【参考書】

看護学や技術に関する参考書

【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
看護過程Ⅱ	1 単位 (15 時間)	関 あゆみ (臨床経験 9 年)	2 年前期

【学習目標】

看護過程の構成要素を基に、事例を使い実際に看護を展開する実践能力を身につける。

【授業の進め方】

講義、個人ワーク・グループワーク、発表

【授業スケジュール】

- 1 授業計画の説明、看護過程Ⅰの復習 事例紹介
- 2 アセスメント
- 3 アセスメント (グループワーク)、関連図
- 4 関連図 (グループワーク)、問題リスト
- 5 問題リスト、看護目標、看護計画、発表準備 (グループワーク)
- 6 グループ毎の発表
- 7 アセスメント練習
- 8 SOAP、まとめ、自己評価

【教科書】

系統看護学講座	専門分野Ⅰ	基礎看護学技術Ⅰ	医学書院
系統看護学講座	専門基礎	病態生理学	医学書院
系統看護学講座	専門	循環器 成人看護学Ⅲ	医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ	老年看護学	医学書院

【参考書】

看護過程Ⅰ授業の資料
その他必要と思う許可書・参考書

【評価方法】

課題提出期限、課題内容、グループ討議などの授業態度、発表態度の総合評価
課題提出期限 期限超過の場合 - 5 点
課題内容 7 割以上の記載がない場合 - 5 点

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
事例演習	1 単位 (30 時間)	和田 光子 (臨床経験 12 年)	2 年全期

【学習目標】

自分の行った看護を文献と照らし合わせて文章としてまとめ、発表することができる。

【授業の進め方】

講義、個人ワーク、発表

【授業スケジュール】

- 1 ナイチンゲール看護論・入門 読み込み・文献ノート作成・グループ発表
- 2 自分の行った看護の掘り起こし
- 3 レポートの書き方・作成 (講義)
- 4 レポート作成
- 5 //
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9 //
- 10 //
- 11 //
- 12 発表準備、発表
- 13 //
- 14 //
- 15 振り返り

【教科書】

金井一薫：ナイチンゲール看護論・入門 現代社 2014
 ナイチンゲール：看護覚書 現代社 1968

【参考書】

基礎看護学実習Ⅱ実習記録 等

【評価方法】

レポート (評価基準に基づく、授業中に示す)、授業態度、発表態度の総合評価

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
基礎看護方法Ⅱ	1 単位 (30 時間)	益満 恵美子 (臨床経験 9 年)	2 年前期

【学習目標】

対象者を総合的に理解し、対象に合わせた看護を実践する方法を学ぶ。

- 1 対象者を総合的に理解する方法を学ぶ。
- 2 対象に必要な看護を考えることができる。
- 3 看護目標を達成するための援助方法を考えることができる。
- 4 対象に合わせた看護実践について考えることができる。

【授業の進め方】

講義、演習、グループワーク、レポート発表

【授業スケジュール】

- 1 看護学生の行動上の倫理
- 2 看護過程のプロセス
- 3・4 グループワーク 患者を理解するための情報収集の内容とその方法について
- 5・6 演習 事例から個別性にあわせた看護、看護過程の展開について
- 7 演習 状態観察、記録・報告
- 8・9・10 日常生活援助の技術練習
(食事、排泄、移動、環境整備、清潔・衣生活援助など)
- 11 グループワーク 情報収集について
- 12 グループワーク 看護判断と看護計画立案について
- 13 グループワーク 看護実践と評価について
- 14・15 「対象者にあわせた看護実践」についてレポート発表

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【参考書】

看護技術ベーシックス 医学芸術社

【評価方法】

出席状況：出席時間と参加態度（20％）・演習技術評価（30％）・レポート（50％）